

## 活 動 記 録 書

開催日： 平成 30 年 4 月 5 日(木) 天候 曇	開催テーマ： 大船地区の桜散策
開催場所： 大船	記入者： 金久保 常二
参加人数：	
会 員 男 30名 女 8名 計 38名	
ビジター 男 0名 女 0名 計 0名	
合 計	38名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：	
<p>コース：大船駅西口階段下 ⇒大船観音寺 ⇒谷戸池・子育て地蔵 ⇒大船フラワーセンター（昼食、自由散策） ⇒龍寶寺 ⇒貞宗寺（解散）</p> <p>曇り空で花冷えのする桜散策となった。大船駅西口集合したのち、大船観音寺を訪ねる。急な坂を上り、山門から右手の参道を進むと巨大な観音像が安置されている。白衣観音像は高さ 25.39 ㍓、幅 18.57 ㍓、重さ 1515 トある。昭和 4 年(1929) 建立着手されたが、戦争などの社会情勢のため未完成のまま経過したのち、昭和 35 年(1960) 完成した。計画当初は東大寺の大仏の約 2 倍の高さの立像を造るはずだったが、地層の関係で胸像になったと伝わる。境内には数十本の桜がシーズンを過ぎたが迎えていた。</p> <p>次に谷戸池に行く。この丸い池は地域のため池で灌漑用水池であった。池周囲は公園になっており、桜が綺麗なところで地域の人々に親しまれている。この時期散り始めた花びらが水面に浮かび「花いかだ」となって漂っていた。池のほとりに子育て地蔵のお堂がある。赤い衣を着て右手に錫杖、左手に宝珠を持って台の上に座る。堂の右手に道祖神や庚申塔、熊野権現と刻まれた石碑がある。</p> <p>この 4 月 1 日にリニューアルオープンされたばかりの愛称「日比谷花壇大船フラワーセンター」を訪ねる。約 64,000 ㎡の園内は自由散策とする。回遊式庭園となっており、花時計、鑑賞温室そして、ぼたん園、鎌倉生まれの鎌倉育ちの玉縄桜広場など折々の草花を楽しむ憩いの場で昼食タイムとする。</p> <p>龍寶寺は玉縄城主三代北条綱成が建てた瑞光院に始まる。天正 3 年(1575) 六代城主北条氏勝が父四代氏繁を弔うため、現在地に移し大応寺とした。創建当時は玉縄北条の菩提寺として栄え、広大な寺領を持つ立派な寺だった。天正 18 年(1590) 豊臣秀吉の小田原城攻めの際、氏勝は死を覚悟して玉縄城に籠城した。時の大応寺の僧の良達などが徳川家康の命令を受け、氏勝を説得して玉縄城を無血開城させている。良達が再び入山して四代城主氏繁の戒名から龍寶寺と改める。境内に入ると多種多彩な草花が植樹されている。そして懇切丁寧に樹名板が付けられているのが嬉しい限りである。昭和 12 年(1937) 現在の玉縄小学校の地に移るまで約 50 年間この龍寶寺に玉縄学校（後の玉縄小学校）があった。</p> <p>貞宗寺は慶長 14 年(1609) に亡くなった貞宗尼の遺体をこの邸内に葬り、2 年後に寺とした。貞宗尼は二代将軍徳川秀忠を産んだ家康の側室お愛の局（宝台院）の生母である。秀忠にとっては母方の祖母にあたる。貞宗尼は晩年、江戸城大奥で御年寄役を務めた後、此処に隠居した。こうしたことからこの貞宗寺は徳川家との関係が深い。本堂開扉で阿弥陀三尊等を拝観させて頂いた。</p>	
参加者の状況・意見など：	
<p>例年より早く開花し観桜の時期は逸したが、桜吹雪や薄いピンク色に彩られた水面に浮かぶ風情、この時期ならと一斉に咲き誇る花々に癒された今年度最後の鎌倉探訪だった。</p>	
次回の予定：	
5 月 11 日（金）10 時 大船駅西口観音様側集合 テーマ「玉縄北条氏の夢の跡」	